

今回は天守台について検討しました。今回は本丸から北側の搦手（裏門）口に降りるところにある「裏鉄門」の枡形部分にある石垣について検討してみます。

裏鉄門は現在発掘調査をしており、絵図面のとおり西向きの門で間口4間、奥行2間、南側が6畳の番所となっていた建物だったことが出土した礎石から確認できました。ただ、この裏鉄門は文化6年（1809）の火災以降に作成された絵図面には描かれておらず、火災後には再建されなかったようです。

ところで、現在裏鉄門の跡地に立ってみると、正面の石垣が上下二段になっていることに気がきます。



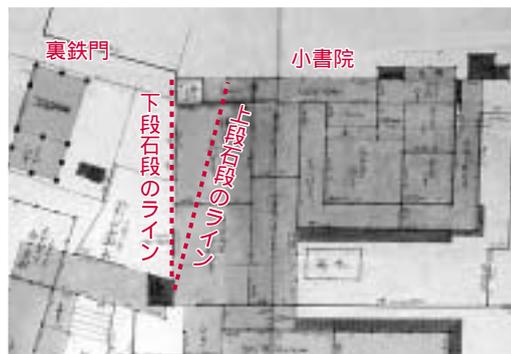
裏鉄門から見た枡形内部

左手の石垣は正面の石垣より高いにもかかわらず、一段で築かれています。しかも写真では分かりにくいのですが、上下は平行ではなく、上段と下段の石垣の間にある平坦面は三角形状になっており、互いの面が平行ではありません。裏鉄門の礎石の配置と平行なのは上段の石垣であり、本来は上段の石垣がそのまままで伸びていて、裏鉄門の枡形を構成していたと考えるのが妥当です。にもかかわらず、わざわざ上段に対して斜め方向に伸びる下段石垣を付けたのはなぜでしょうか？

津山城百聞録

42 津山城の築城過程3 裏鉄門の謎

現地を見ているだけではなかなか疑問は解けません。絵図面をよく見るときちんと答えが描いてありました。



裏鉄門付近の絵図(津山城資料編から)

上の絵図面を見てください。色の濃い部分が建物です。左上の建物が裏鉄門です。その右手の建物は本丸御殿の最も北に位置する「小書院」です。この小書院の西面（絵図面では左側）が現在問題にしている場所です。絵図面と現況の石垣とで比較してみると、小書院の西側の柱列は下段石垣のラインと一致しています。さらに小書院の北西角には「梯子上り口」という記載があります。これは小書院すなわち本丸の段から下段石垣の上面に降りる梯子なのです。上段と下段のラインに挟まれた部分がいわば地下室のような形になっていたのです。言い換えるなら、本丸御殿が枡形内にはみ出す形で建てられており、その柱を支えるために下段の石垣を築き、さらに上段石垣との間の空間を、地下室としているのです。

御殿が枡形にはみ出すような構造は通常では考えられず、地形の制限により本丸に十分な広さが確保できないが故の苦肉の策と思われます。

私はへびが大嫌いです。去年（ひ）さんと（郁）さんは川に入って花火の撮影をしたそうです。へびはいないんですか？と聞いたら、「遭ったことはない」とのこと。今年は増水で川に入れなかつたので、だれもへびには遭わずに済みました。めでたし、めでたし？（e）

タバコの値上げと同時に禁煙を始めた人もいらつしやることでしょうか。私もその1か月前から挑戦しています。何とか続けたいへんになりました。（郁）

今年のこんごまつりでは、花火の写真を上手に撮ることを目標にしてみました。花火が始まる前に、三脚にカメラを取り付ける準備をしていると、カメラを固定するネジが見当たりません。結果は当然ぶれた写真になりました。道具のチェックは事前にするように、次の担当者に伝えよう。（ひ）

編集後記

今月の納税

固定資産税 3期
国民健康保険料 3期
介護保険料 4期
納期限：9月30日（火）

ひとの動き

（8月1日現在）
人口 90,111人（前月比 4人増）
男 42,959人（同 8人増）
女 47,152人（同 4人増）
世帯数 34,836世帯（同 +14世帯増）

7月中の異動数

出生 83人、死亡 59人
転入 221人、転出 249人



編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501 岡山県津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社

広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください。

